

2007 年度事業

主催事業

「茶人川上不白とまちづくり」事業

きのくに活性化センターは、2007年度事業として新宮市で「茶人・川上不白とまちづくり」事業を展開してきました。川上不白は、江戸時代から始まる茶道江戸千家の流祖で、日本の茶道史に大きな足跡をとどめています。が、その業績はこれまでふるさとにおいてふさわしい評価がされてきたとは言い難いのが現状です。

そこで、きのくに活性化センターは2007年に新宮市、新宮商工会議所に、不白の没後200年になるのを機に、このすぐれた茶人・文化人である川上不白に光を当てなおし、まちづくりに活かす事業を提案し、これを受けて市、商工会議所が中心になって取り組むことを決定しました。

そして、地元茶道関係者、菓子商工組合、市教育委員会、和歌山県東牟婁振興局、そして和歌山大学、きのくに活性化センターが参画して川上不白顕彰事業実行委員会を発足させ、事業を推進してきました。

①没後 200 年 茶人川上不白を偲ぶ茶会

2007年12月8日、新宮市の不白ゆかりの本廣寺で江戸千家宗家による献茶・茶会が開催されるのにあわせて、地元音無会による茶会を宗応寺で開く。

②資料集『熊野・新宮から見た川上不白の風景』を刊行。

③観光マップ「熊野しんぐう 茶人・川上不白ゆかりのまち歩き

城下町のお菓子食べ歩き」

茶人ゆかりの地をめぐるながら和菓子等を楽しむあらたな新宮散策コースを提案。